

「言葉に強い生徒を育てる」埼玉平成高等学校で

吉元由美審議委員が講演

～夢は叶う 言葉が私たちの未来を創る～

吉元由美審議委員 講演
取材記事

ライター 鶴川 良子

作詞家・作家であり、日本語検定委員会の審議委員でもある吉元由美さんが、さる5月28日に、学校法人山口学院埼玉平成高等学校にて講演を行いました。



埼玉平成高等学校



熱心に講義を聞く生徒たち

スポーツを中心に多くの実績を生み出している文武両道を是とする同校。特に近年は「言葉に強い生徒を育てます」をキャッチフレーズとし、コミュニケーション力のある生徒を育てることを第一の目標としています。その教育の一環として「日本語検定」を導入。全生徒が受検するなか、すでに、2級に合格し全国最年少合格者に贈られる「時事通信社賞」を受賞した生徒も輩出。また、生徒と教員の間にも、言葉の使い方についての会話が自然と生まれるなど、その効果が浸透しています。

知識を詰め込むのではなく、挨拶や言葉を学ぶことで思考力・判断力・論理力を身に付けさせると同時に、感性の強い生徒を育てている同校。ことに朝の登校時には、生徒から元気な「おはようございます」の声が飛び交い、確かな日本語教育の成果を感じることができます。

演題は「夢は叶う 言葉が私たちの未来を創る」。才能とは何か、夢を叶えることに必要なことは何か、そして自分の言葉を持つことの重要性や言葉のエネルギーについて、作詞家として歩んでこられたご自身の歩みを紹介しつつお話しなさいました。また、生徒には夢を叶えるための質問が綴られたシートが配られ、真剣な顔でシートと向き合う生徒の姿も見られました。



吉元由美氏プロフィール

1984年作詞家としてデビュー。ANRIの lyric produce、ミリオンヒットとなった平原綾香のデビュー曲「Jupiter」、山本達彦、中山美穂、加山雄三等、多くのアーティストの作品を手掛ける。1989年に小説『さよなら』（マガジンハウス刊）で作家デビュー。以後多くの著作を手がける。最新刊は『自分の言葉をもつ人になる』（サンマーク出版）。

また最近では、2008、2010、2012年シアタークリエ版 ミュージカル「RENT」の訳詞を担当。淑徳大学人文学部表現学科客員教授。2015年より日本語検定委員会の審議委員を務める。

著書



次ページへ続く >>>

***** 講演内容 *****

◆才能のない人はいない

作詞家としてデビューして30年。アニメーションから歌謡曲まで、手掛けた歌は1000曲にもものぼる。だが、学生時代は音楽も不得意で、特に何かに秀でているわけではなかった。しかし、「人には必ず才能がある」ということは信じていた。才能とはスポーツや音楽だけでなく、人を笑わせることが上手など、自分ができる得意なことはすべて才能と考えていい。そして生きている実感を味わえる「生きがい」を探したいと思っていた。

学生時代は、女性雑誌記者のアシスタントやNHKの国際局報道部、自然化粧品の店などでアルバイトをした。どのアルバイトもその場で「学び」を見つけ、社会を垣間見ることができるものだった。皆さんも、これからアルバイトをしたいと思ったら、まず「自分の勉強となること」が一番のポイントにして選んでほしい。「学び」は自分の栄養と考える。それが自分の生きがいを見つけるのに役立つ。仕事とは、才能を社会に生かし還元して生きることであり、それが「自分らしい」ということでもある。

自分はクリエイティブなことに興味があったので、大学卒業後は広告代理店に就職した。そこでクリエイティブ局のかたから作詞をすることを勧められ、それから2年間は帰宅後、深夜まで勉強した。人生の受験勉強だった。なにがなんでも作詞家となることをあきらめなかった。自分は絶対にできると信じ続けることが大切。

とはいえ自分を信じ続けることは難しい。

でも、今を生きる私たちにとって「命があること」だけは確か。私たちの体は60兆個の細胞にある遺伝子によってプログラムされているが、全人類の遺伝子をまとめると、どのくらい大きくなるか。なんと米粒一粒の大きさだそう。私たちの命はすごい。自分の命はすごい。それを信じ、あきらめないでほしい。

◆夢を叶えるために大切なこと

夢を叶えるためには「学ぶこと」「鍛錬すること」「感謝すること」「行動すること」「あきらめないこと」そして「宣言すること」が大切。

夢を叶える「宣言」をすると、夢の内容が自分の心に刻まれ「自分はやる！」と夢を自分の心の中に落とし込むことができる。自分の思いをはっきりさせる大事なプロセスにもなる。そして、夢はどンドン口にしたほうがよい。「叶う」という字は「口」に「十」と書

く。だから夢を叶えるには、そのぐらい夢を口にしていっていい。必ず、その夢に賛同してくれる人が出てくる。自分ひとりでは難しい夢も叶えることができる。

そして、叶ったときのイメージをしっかりと持つことも大切。くじけそうになったらそのイメージを思い出すとよい。夢への挑戦をやめないかぎり、終わりはないのだから。

◆自分の言葉を持つ

心の中で自分と会話するときに、ネガティブな言葉を使わないようにする。「せねばならない」という気持ちが圧迫される言葉を、「Let's」という言葉に切り替えると、「じゃあ、やろう！」と心の中でスイッチが入る。言葉で気持ちは変わる。そして自らの想像力の視座となる「心の眼」を持つようにしよう。そのためには五感を全開にして、心の感性を鍛えることが重要。

また、米の環境学者、レイチェル・カーソンの言葉に「Sense of wonder」というものがある。「どうして花は咲くの？」というような不思議がる感覚を大切にすると、小さなことでも驚き感動できる。小さな驚きを繰り返すことで、その感動を伝える言葉が磨かれていく。

言葉はエネルギーでもある。

特に「やまとことば」には言霊が宿っている。例えば、「行ってらっしゃい」には、「どうか無事に帰ってきて」という祈りが、「お帰りなさい」には、「無事でよかった」という感謝の気持ちが込められている。その言葉の意味を知り、言葉の心を知れば、視界が広がり、想像力が身に付く。

言葉はギフト。言葉は投げかけるものではなく、手渡すものである。相手へのプレゼントだと思って言葉を使ってほしい。

◆ジャンプをするためにはしゃがまなければならない

かつては自分も「夢への近道はないか」と師に質問したことがある。だが答えは「今はしっかりしゃがんでいなさい」というものだった。そうしてこそ、高いジャンプができるからだ。忍耐強く勉強してきたことと、その言葉が今の自分を支えている。

皆さんは、自分が思っている以上の自分に絶対に将来出会えます。ですから、今、この瞬間を楽しみながら、学生生活を送って下さい。